

ねらい 「ネットワーク利用上の犯罪防止と適切な利用方法を考える」

指導の
ポイント

情報機器を正しく安全に利用できること

情報セキュリティに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、情報セキュリティの確保のために、対策・対応ができるようになる。

目指す
子どもの姿

ネットワークを利用する上でのルールを理解し

トラブルの解決方法について考える

○トラブルに遭遇したときの様々な解決方法を考える

○違法な行為による個人や社会への影響について考える

学習の
ポイント

情報の取捨選択 と情報発信

- ・情報を活用する際には、情報源の信憑性や情報そのものの信憑性に注意する。
- ・情報を発信する際には、情報の受け手の状況なども考慮して、正しく、誤解なく情報が伝わるように配慮する。

個人情報の保護 情報セキュリティの確保

- ・個人情報の利用目的や公開範囲に応じて、自己の情報をどの程度まで提供するかを判断することの重要性を考える。
- ・自己の情報を送信する際に、技術的安全対策が施されていることを確認する態度を身につける。

SNS を通じた犯罪被害

- ・SNS で知り合って仲良くなり、誘い出されて誘拐や殺人事件に発展。
- ・お金ほしさに軽い気持ちであった、性被害に遭ってしまう。
- ・SNS で送られてきた裸の動画や写真を軽い気持ちで他の人に転送してしまい加害者となる。

自助・共助
のポイント

情報社会の中での適切な判断や行動

ルールやマナー、法律を理解し責任ある行動をとる

学習支援のポイント

- ・情報社会の特質を意識しながら安全に行動する態度や、自他の安全や健康に配慮した情報メディアとの関わり方を学ばせる。
- ・情報手段をいかに上手に賢く使っていか、そのための判断力や心構えを育成する。

実践例 「ネットワーク社会との関わり方について考えよう」

各教科等における安全教育

<正しい知識の習得>

国語 現代の国語

情報の妥当性や信頼性の吟味

- ・情報の妥当性には、その情報が正しいものであるということに加えて、その情報を根拠として挙げる場合などに、根拠としての適切さを欠いていないことが必要となる。
- ・情報の信頼性は、その情報が確かなものであるかどうかを出典の示し方から確認するだけでなく、誰が、いつ、どこで発信したものを確認することも重要となる。

<思考力・判断力・判断力の育成>

情報 情報社会の問題解決

- ・情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けること。
- ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解すること。
- ・目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えること。

日常的な安全教育

ショートホームルーム等で

<事件・トラブル発生をうけて>

- ・実際に発生した事件・トラブルを教訓に、自分たちの行動を振り返り、トラブルに巻き込まれないようにするための安全な行動について考えさせる。

<繰り返し指導>

<情報機器の使用のマナーの確認>

携帯電話等の使用のマナーを随時確認、指導する。

- ・病院内や電車内優先席付近では携帯電話の電源を切る
 - ・歩行中や自転車運転中に携帯電話は使用しない
- などは、機会あるごとに繰り返し指導する。

情報モラル教室等(PTA等との連携)

定期的な安全教育

<学校・家庭における理解の共有>

○巻き込まれやすいインターネット上のトラブルの理解

- ・警察や専門家などからインターネットの使い方の変化に伴い、その実態や影響にかかる最新情報の入手を行う。(インターネットは、使い方によってはトラブルの加害者にも被害者にもなる 等)
- ・トラブルが起きた際の解決方法や対応策、及びトラブルを事前に防ぐ対応策を学ぶ。

○保護者の理解と協力

- ・子どもたちの情報機器の利用によるトラブルを理解し、そのようなトラブルを引き起こす手段を子どもたちに持たせているという自覚を持ち、家庭内でも十分な対策をとってもらう。

生徒がインターネットに起因する問題の加害者にも被害者にもならないよう、教員が関連する法令の知識や、危険なウェブサイトの存在についても知った上で指導に当たる必要がある。

また、学校での指導には限界が在り家庭での指導が不可欠であることや、指導や啓発における学校と保護者との役割分担についても保護者に説明することが必要である。